

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成29年9月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①～③、図2～5）

11日、29日に上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）を実施しました。各火口に噴気は認められませんでした。また、赤外熱映像装置¹⁾による観測では、各火口の地表温度分布に特段の変化は認められませんでした。

山麓に設置した監視カメラによる観測では、昭和4年火口の噴気は観測されませんでした。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図6）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図7）

GNSS²⁾連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

- 1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平26情複、第658号）。

次回の火山活動解説資料（平成29年10月分）は平成29年11月9日に発表する予定です。

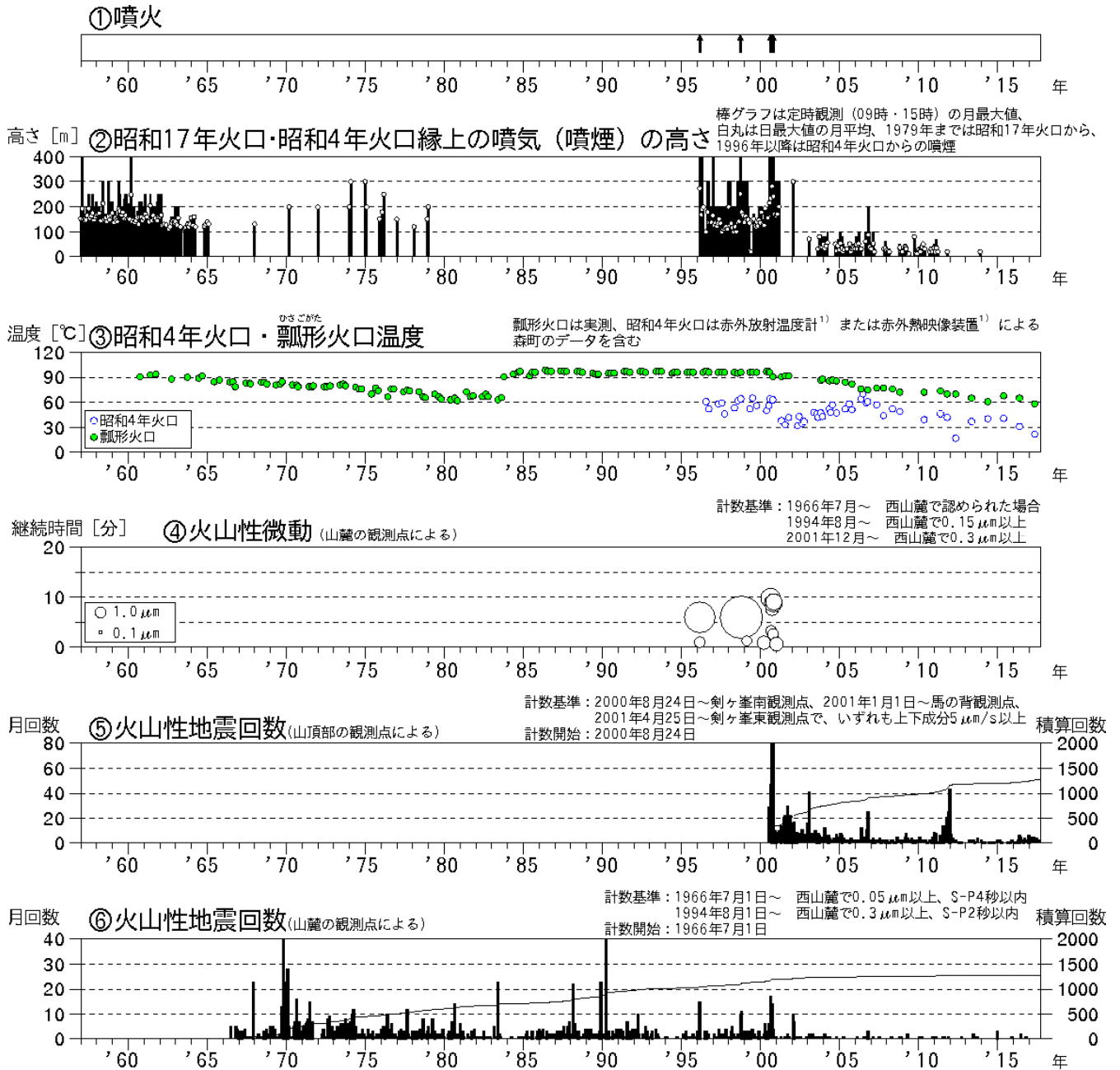


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2017年9月）

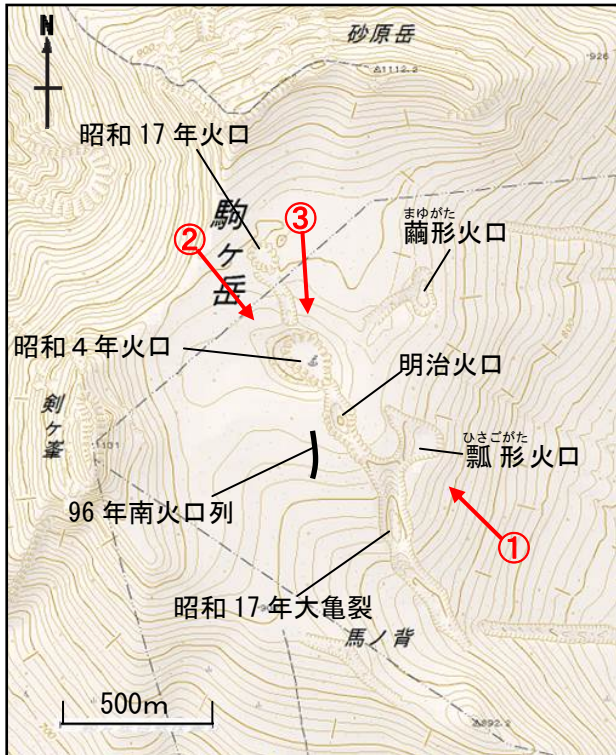


図2 北海道駒ヶ岳 火口周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向 (矢印)



図3 北海道駒ヶ岳 山頂火口原の状況
南東側上空 (図2の①) から撮影

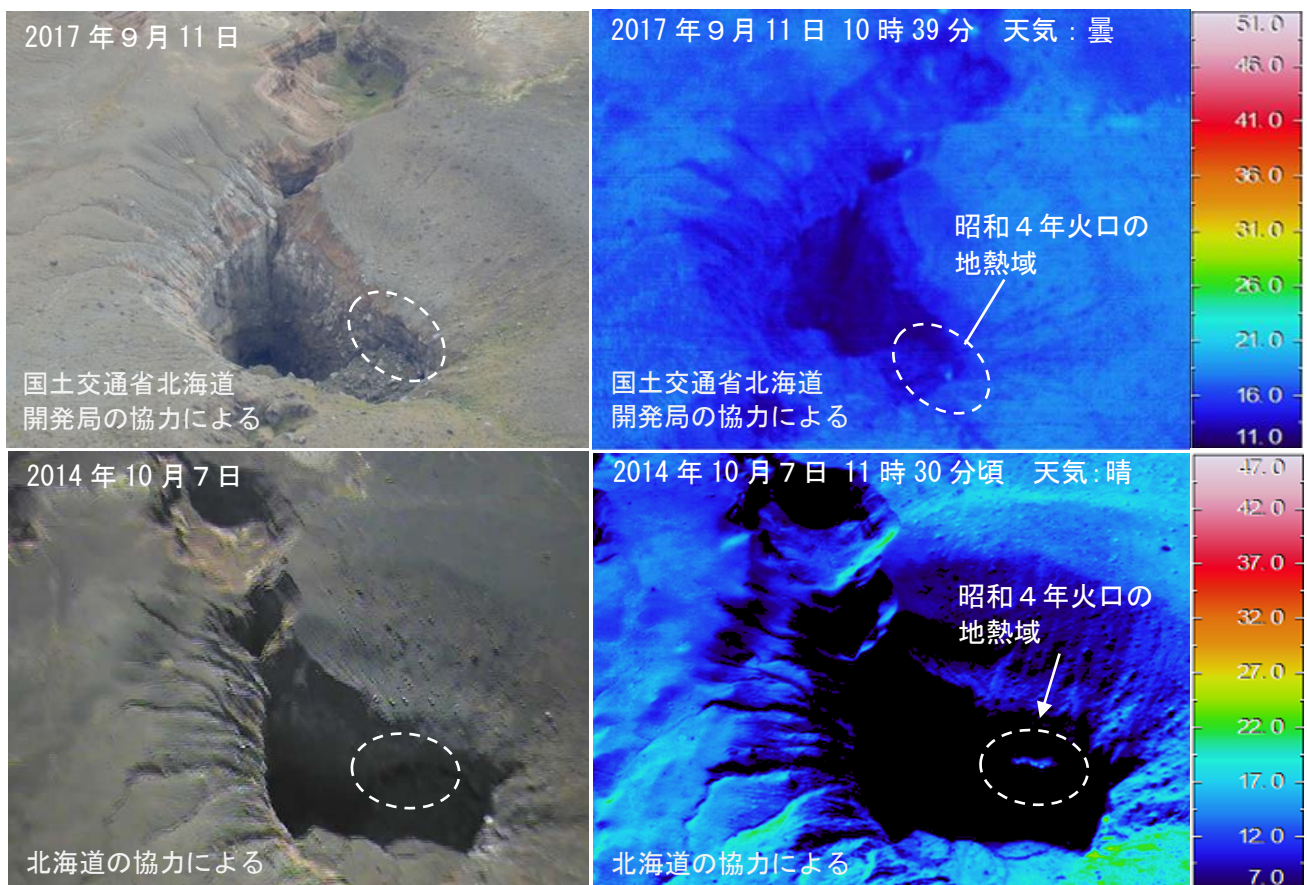


図4 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口の地表面温度分布
上段：北西側上空 (図2の②) から撮影 下段：北側上空 (図2の③) から撮影
・昭和4年火口では、引き続きごく弱い地熱域が認められました



図5 北海道駒ヶ岳 東南東側から見た山頂部の状況
(9月24日、鹿部公園南東監視カメラによる)

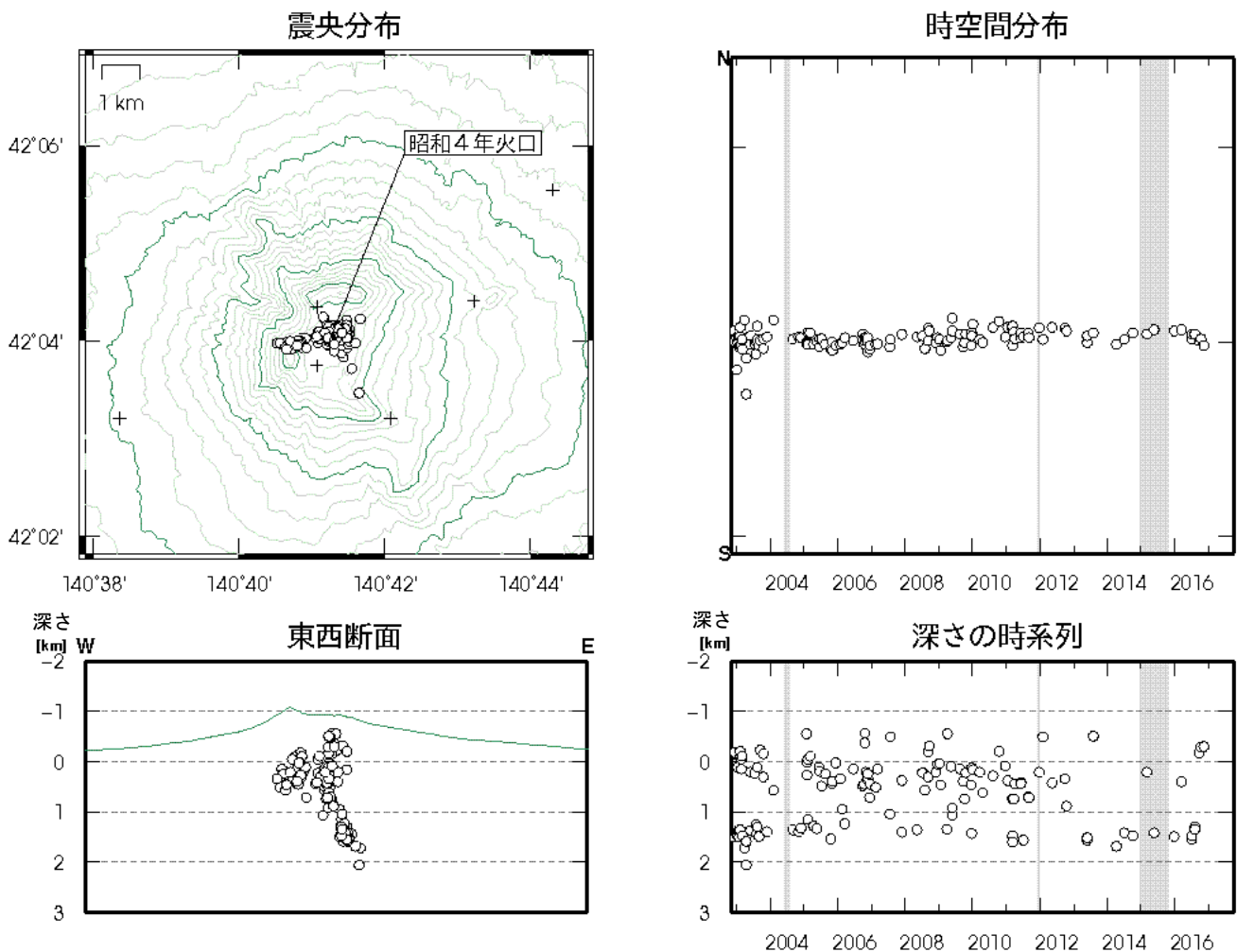


図6 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布 (2002年12月～2017年9月)
灰色の期間は一部観測点欠測のため、震源については求まる数の減少や精度の低下がみられます

+印：地震観測点

・今期間、震源が求まった地震はありませんでした

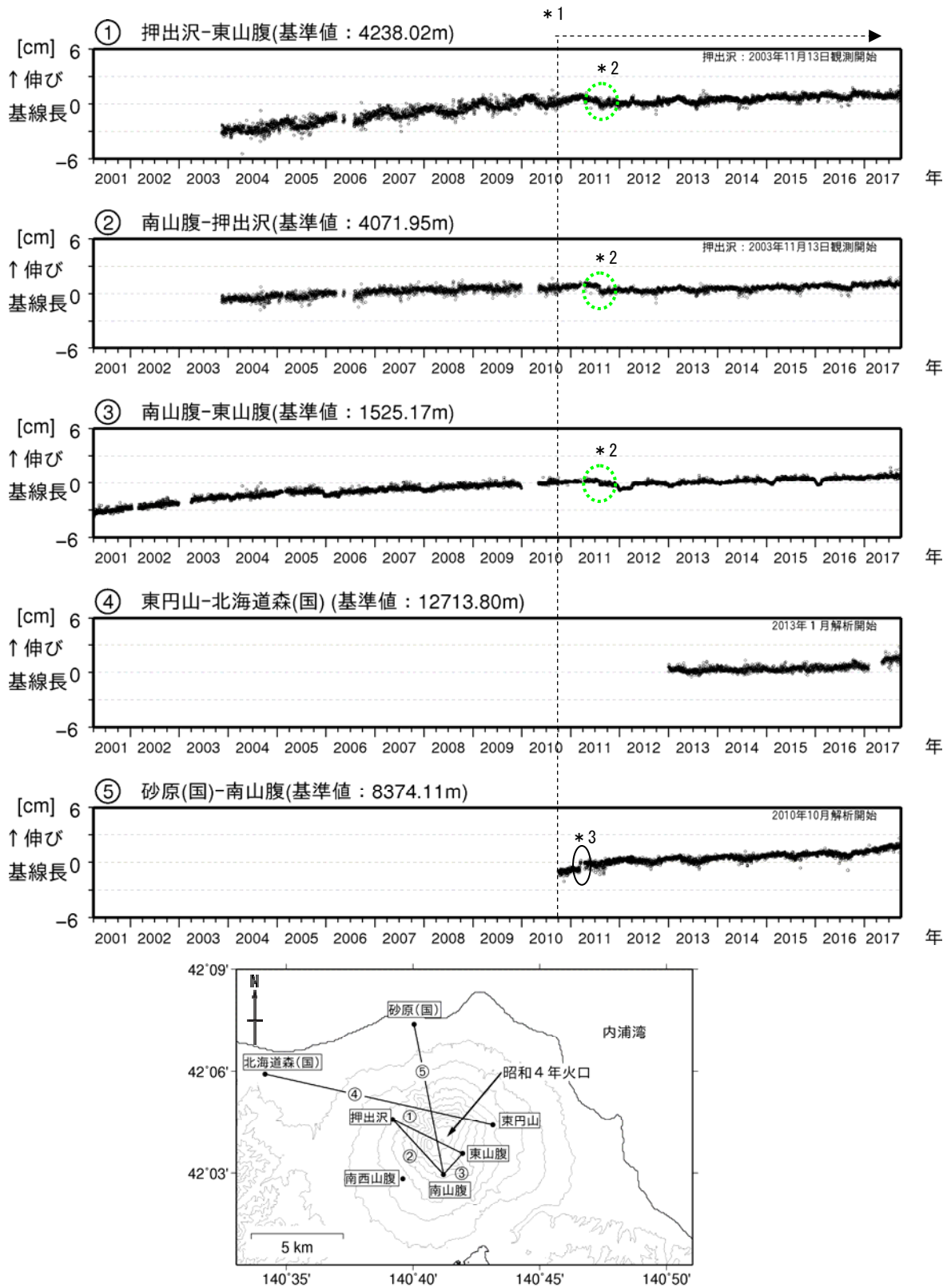


図 7 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化 (2001年4月～2017年9月) 及び観測点配置図
 ・GNSS基線①～⑤は観測点配置図の①～⑤に対応しています
 ・GNSS基線の空白部分は欠測を示します
 ・(国)：国土地理院
 * 1：2010年10月以降のデータについては、解析方法を改良して精度を向上させています
 * 2：緑点線円内の変動は、機器更新によるものです
 * 3：楕円内の変動は、2011年3月11日に発生した「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の影響によるものであり、火山活動によるものではありません

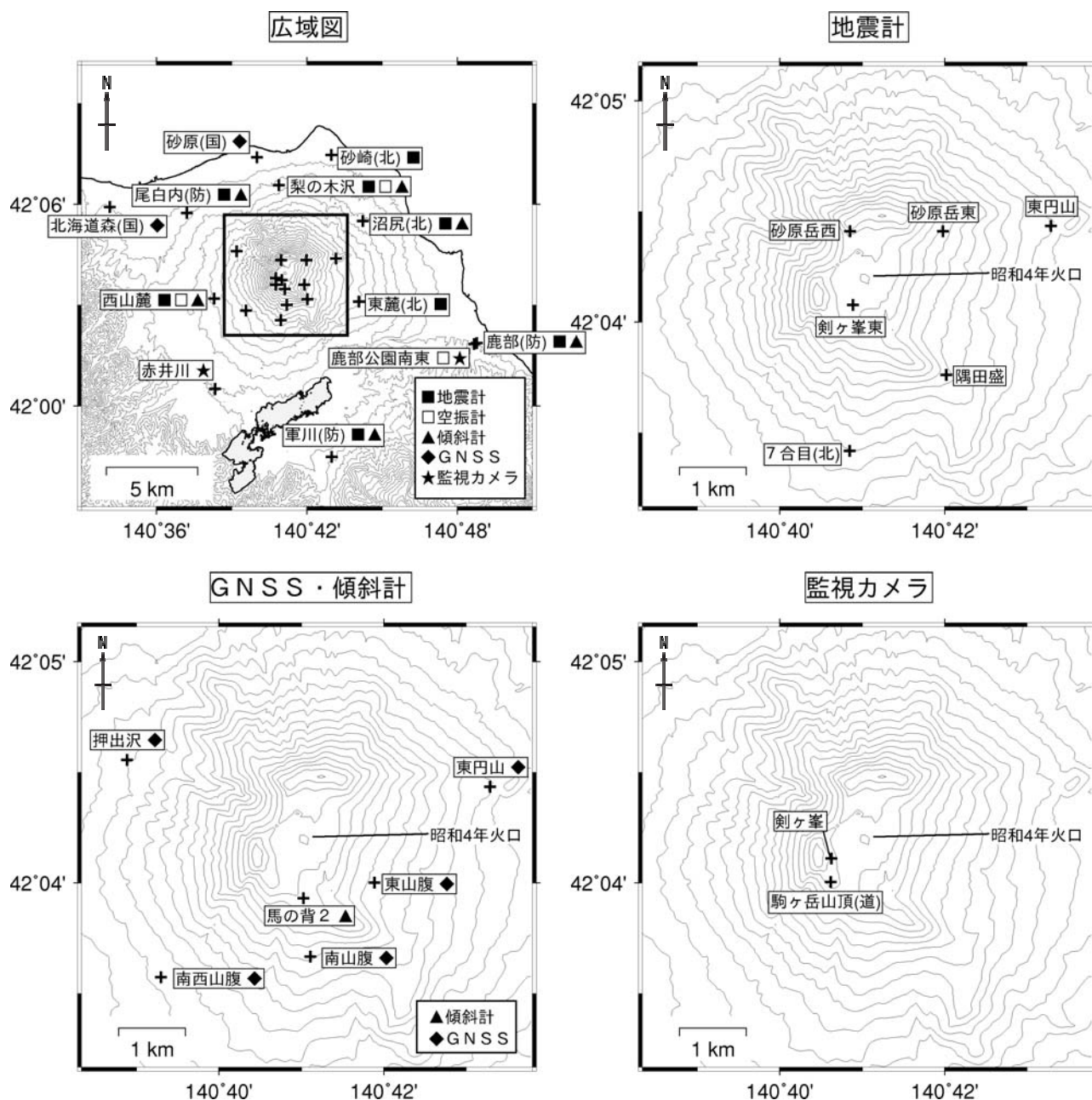


図 8 北海道駒ヶ岳 観測点配置図
 各機器の配置図は、広域図内の口で示した領域を拡大したものです
 +印は観測点の位置を示します
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています
 (国)：国土地理院
 (北)：北海道大学
 (防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所
 (道)：北海道